

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校定時制の課程は昭和 23 年の設置以来、「明るく生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な社会の有為な形成者の育成」を不易の教育目標としています。

「確かな学力」「豊かな人間性と規範意識」を身に付けた生徒の育成、「生徒支援と安全安心な学校づくり」をめざして、生徒一人ひとりを大切に、「入ってよかった」と言われるような学校をめざしています。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (学習活動の充実)

個々の生徒に応じた確かな学力の育成と授業改善の取組み

- ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、基礎学力の育成など、確かな学力を身に付けさせる。(授業理解度 2020 年度 90%、最終 100%が目標)
- イ ICTを活用した授業や主体的協同的な学びをめざした授業に取り組むなど、授業の質的改善を図る。
- ウ 校内の公開研究授業や研修を通じて、個々の授業力をさらに向上させる。
- エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業などをできる限り推進する。
- オ 生徒の資質・能力を高めるシラバス作成により、授業のねらいをはっきりさせ、生徒に付けたい力を意識した授業を行う。

2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成

規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む

- ア 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の確立を指導し、規範意識の醸成に努める。(年間の生徒登校率を、2020 年度 85%以上にする。)
- イ 特別活動や行事を充実して生徒の参加意欲を高め、自尊感情(自己肯定感・自己有用感)を育成し、良好な人間関係づくりを指導する。
- ウ 全学年でキャリア教育や進路指導を充実させ、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を 100%になるように努める。(進路決定率 2020 年度 90%以上にする。)
- エ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。
- オ 18 歳選挙権を見据え、社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

3 生徒支援と安全安心な学校づくり

生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

- ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。
- イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。
- ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- エ 高校生活支援カードの活用など、生徒情報の収集と共有化を図り、SC等の教育相談や配慮を要する生徒支援をスムーズに行う。
- オ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 6 月・10 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>☆生徒用・保護者用・教職員用の 3 種類を 6 月と 10 月にそれぞれ実施。</p> <p>○生徒の評価から 学校のルールを守る 79%→78%の評価が高い。評価が大きく上昇した項目は、生徒指導に納得 47%→60%、命の大切さ・社会のルール学ぶ機会 56%→65%。大きく下降した項目は、学校へ行くのが楽しい 62%→51%、遅刻欠席をしない 73%→60%。また、進路を考える機会 63%→64%、わかりやすい授業 63%→65%の結果から、生徒・進路・学習指導は全体の 2/3 の生徒が評価している。ただ進路指導は学年間で差があり、4 年 80%以上、1 年わからないと回答した割合が多く、在籍年数が影響した結果である。学校に行くのが楽しいについても学年間で差があり、担任から聞き取りを行い、生徒とともに楽しい学校について考えている。</p> <p>○保護者の評価から 回答数は 6 月 35 名、10 月 13 名なので、保護者全体の意向を正確に反映できていない可能性はあるが、相談に応じてくれる 91%→85%であり、相談体制に信頼をいただいている。わからないと回答した数値を除けば、いじめ対応 96%→78%、進路指導 81%→88%、命の大切さ・社会のルール学ぶ機会 73%→100%と各項目で高評価と判断できる。一方、学校楽しい 73%→54%は生徒と同様の結果、わかりやすい授業 72%→50%は生徒と異なる結果となった。授業改善は、これまで以上に取り組む必要がある。</p> <p>○教員の評価から 自己評価が高い項目は、教職員が日常的に話し合う 89%→94%、教材の精選・工夫 95%→89%、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導 95%→83%、教育相談体制が整備 84%→83%、キャリア教育 89%→89%である。一方、評価が低い項目は、到達度が低い生徒への学習指導 74%→61%、生徒・保護者・地域への情報周知 63%→61%。これらは TT および HP の充実で対応したい。部活動の活性化 74%→50%は、生徒数減少に伴う部活動数の減少が関係しており、やむをえない結果と受け止めている。</p> <p>調査結果から、十分に対応できていない項目が複数明らかになった。外部からの支援も活用しながら、定時制に通う生徒の支援に努力したい。</p>	<p>第 1 回 (6/21) 授業見学を行った上で、今年度の学校経営計画の内容と重点事項、各分掌からの取り組み計画、教職員用学校教育自己診断結果などについて意見をいただいた。</p> <p>○授業見学・各分掌の取り組み計画説明から——授業での指導の工夫が見られてよかった。ペアワークなどコミュニケーションを図っていかないと参加できない授業では、苦手な生徒への対応など考えて欲しい。外国籍の生徒に対して、教育サポーター以外の支援についても検討していただきたい。</p> <p>○学校経営計画について——昨年度との大きな変更点はなく、学校の現状と取組について資料を用いて説明した後、計画の了承を得た。</p> <p>第 2 回 (10/19) 第 1 回授業アンケート(7 月実施)、保護者用生徒用学校教育自己診断(6 月実施)、生徒生活実態アンケート(7 月実施)、教職員用学校教育自己診断(10 月実施)の結果について説明を行った。引き続き、各分掌より現在の取組み状況について資料を示して説明した。</p> <p>○教務部 平成 31 年度使用教科書一覧を提示し承認を得た。1 年生に実施した基礎学力調査については、内容面について意見があった。調査について検証の必要がある。調査結果をどのように授業改善にいかしていくかは検討していただきたい。</p> <p>○生徒指導部 遅刻許容時間を 15 分から 5 分に変更したことで、欠課時数が増加したのではないかとこの質問があったが、一部の生徒に限定されていることをお伝えした。</p> <p>○進路指導部 今年から取り入れたジョブチャレについて、参加生徒が少なかった点を改善したい。取り組み自体は重要なので、実際の授業に組み込んだりすることで、活性化を図ってほしいとアドバイスいただいた。</p> <p>第 3 回 (1/25) 第 2 回授業アンケート(12 月実施)、保護者用学校教育自己診断(10 月実施)の結果説明。</p> <p>○第 2 回授業アンケートについて——とても高い数値で授業改善が成功している。</p> <p>○保護者用学校教育自己診断について——回収率が悪く、実施時期を検討する。</p> <p>○日本語指導を充実させるため、2019 年度入学生から教育課程表を変更したことについて、現状および制度についての質問があったが、了解が得られた。</p> <p>○学校経営計画について——平成 30 年度・2019 年度の学校経営計画及び学校評価(案)が承認された。</p>

府立布施高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>個々の生徒に応じた確かな学力育成と授業改善の取組み</p> <p>ア 確かな学力の定着</p> <p>イ ICTの活用や授業改善による授業力の向上</p> <p>ウ 公開授業研究や・研修を通じた授業力向上</p> <p>エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業の継続</p> <p>オ 明確な授業作り</p>	<p>ア 生徒の学力に応じた学習内容を設定し、計画的に確かな学力を身に付けさせる。基礎学力の育成にゼロ時限を活用する。</p> <p>イ ICTなどを活用した授業、生徒の主体的協同的な学びを取り入れた授業を増やし、授業改善を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>ウ 経験の少ない教員を中心に、公開研究授業・校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。</p> <p>エ 少人数展開・TTのきめ細かな授業を継続し、理解しやすい授業づくりを推進する。</p> <p>オ ねらいの明確なシラバス作成、生徒につけさせたい力を意識した授業作りで、生徒にとって学習効果の高い授業を行う。</p>	<p>ア 基礎学力の定着が必要な生徒を受講させ、単位認定まで指導する。 H29 4人→H30 5人</p> <p>イ ICTを活用する教員数や授業数 教員数(構成比) H29 76.5%→H30 78%</p> <p>ウ 学期ごとに、授業力向上のための公開研究授業実施(年2回)</p> <p>エ 授業アンケートの活用・授業理解度 H29 79.1%→H30 82%</p> <p>オ 授業アンケートの活用・知識・技能が身に付いた H29 75.2%→H30 77%</p>	<p>(1)ア 新入生を中心に、担任団の協力を受けて指導したが、受講者数を増やす事ができなかった。(△) H29 4人→H30 2人</p> <p>(1)イ 授業改善に伴い、ICTを活用する教員数や授業数が増加して、生徒の授業理解が深まった。(◎) H29 76.5%→H30 88.2%</p> <p>(1)ウ 学期ごとに取組みを行い、初任者模擬授業、公開研究授業を授業改善の研修に結び付け、授業改善の効果を上げる事ができた。(◎) ※初任者を対象にした公開研究授業を2回実施</p> <p>(1)エ 授業アンケート結果を活用して、学校全体として授業改善に努めた結果、目標を大きく上回った。(◎) ・授業理解度：H29 79.1%→H30 88.3%</p> <p>(1)オ 生徒に付けたい力を意識した授業作りで、授業の組立がはっきりし、生徒の意欲を高め、目標を大きく上回る事ができた。(◎) ・知識・技能：H29 75.2%→H30 82.3% ※管理職による、全教員の指導案作り指導で、授業の組立やねらい、評価法なども徹底する事ができた。</p>
2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成	<p>規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)の育成と人間関係づくり</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化(加入率の向上)</p> <p>オ 18歳選挙権を見据えた計画的な政治的教養の育成</p>	<p>ア 基本的な生活習慣の確立 欠席・遅刻・早退・欠課(中抜け)の防止、規範意識の醸成・授業規律の確立(携帯使用、飲食、私語)学習習慣の形成を図る。</p> <p>イ 計画的な取組みにより、生徒の参加意欲を高め、コミュニケーション力の育成と他者との豊かな人間関係づくりを図る。総学・行事・HRなど活動を通じて育成を図る。</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実 進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図り、希望者の卒業時の進路決定率を高める。ハローワークや外部機関と連携を深め、計画的な進路指導を行う。</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化を図り、主体的な取組や自尊感情高揚の機会と生徒を育成する。</p> <p>オ 政治的教養の育成を計画的に実施する。</p>	<p>ア 中退、再履修(留年)、長欠を各々10%低減する(目標)</p> <p>年間登校率 H29 82.9% → H30 85%</p> <p>年間遅刻数(のべ人数) H29 8982 → H30 8500</p> <p>中退(人) H29 17 → H30 15</p> <p>再履修(留年)(人) H29 8 → H30 7</p> <p>長欠(30日以上欠席)(人) H29 43 → H30 39</p> <p>※滞留生(長欠者)の在籍確認</p> <p>イ 学校教育自己診断・行事が工夫されている H29 63.5%→H30 70%</p> <p>ウ 相談件数や各学年向けガイダンス実施件数(各学年3回以上を計画実施) 就職希望者・進学希望者の進路決定率 目標：90%以上</p> <p>エ 部活動の活動状況検証 加入率40%台の維持(目標)</p> <p>オ 計画を作成し、地歴公民の授業内で、育成する。(現代社会で2時間以上扱う)</p>	<p>(2)ア 生徒指導部の体制が徐々に整い、学校全体としての取組みが効果を発揮しつつある。ほぼ目標を達成できた。(○)</p> <p>年間登校率 H29 82.9% → H30 79.4%</p> <p>年間遅刻数 H29 8982 → H30 4504</p> <p>中退者数 H29 17 → H30 13</p> <p>再履修者数 H29 8 → H30 10</p> <p>長欠者数 H29 43 → H30 36</p> <p>(2)イ 行事に対する取組みを改善したため、達成感の高かった文化祭前の調査に関わらず、目標を達成できた。(○) ・行事が工夫されている H29 63.5%→H30 69.9%</p> <p>(2)ウ キャリア教育の取組みが整うに従って、校内が一致して取り組めるようになってきた。これまで指導に乗せられなかった生徒にまで範囲を広げ、ほぼ成果を上げられた。(○) (3月末現在、卒業生全体で 78.6%)</p> <p>(2)エ 多くの教職員の協力を得て、生徒秋季発表大会等で、大きな成果を上げる事ができた。今後も、外部からの援助を増やし、また少ない教職員数でできる負担を考慮しつつ、部活動の維持に努める。(◎) 部活動加入率 H29 47.2%⇒44.1%</p> <p>(2)オ 公開研究授業で模擬選挙を取り上げる事で、生徒への意識啓発に努め、大きな成果を上げられた。(◎)</p>
3 生徒支援と安全安心な学校づくり	<p>生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくりの取組み</p> <p>ア 健康安全教育の推進(生徒の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)</p> <p>エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実</p> <p>オ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>ア 健康安全教育の推進 薬物、性感染症、喫煙、防犯防災、虐待、交通安全等、重要課題について防災訓練や健康HR等を通じて啓発を図る。特に喫煙については、禁煙の指導を強める。</p> <p>イ 全教職員が一致団結した協力体制を構築し、問題事象の防止に努め、発生時には適切な組織的対応を図る。</p> <p>ウ 人権HRの充実を図り、生徒の人権意識を高める。教職員には校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</p> <p>エ 教育相談の充実と支援コーディネータを中心とした支援教育のための校内委員会活動を展開するとともに、高校生活支援カードの活用や、個別の教育支援計画の作成を行う。</p> <p>オ 家庭、地域と連携して、保護者会活動を活性化させる。中高連絡委員会を核にして中学校訪問などにより情報共有を行う。広報紙の定期的な発行配布やHPの充実による情報発信を行う。授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査を実施し、結果を学校運営に反映させる。</p>	<p>ア 生徒のHR出席率の向上 75%以上が目標</p> <p>・教職員による防災訓練を毎年実施して防災体制の強化に努め、緊急時の対応を確実に行う。</p> <p>イ 懲戒件数低減(目標) H29 9件→H30 7件</p> <p>・非常時には、准校長の指揮のもと、生活指導部長を中心とした組織的な指導体制で対応する</p> <p>ウ 学校教育自己診断 ・人権意識が高まる H29 64.6%→H30 68%</p> <p>エ 学校教育自己診断 ・先生に気軽に相談できる H29 60.0%→H30 68%</p> <p>オ 「布施定だより」の発行 生活実態調査の活用 ・学校へ行くのが楽しい H29 57.5%→H30 60%</p>	<p>(3)ア 担任を中心としてHRの内容をしっかりと考え、生徒のHR出席率の向上に結び付いた。 (3月末 72.8%) ・災害への迅速な対応が学校にも求められるなか、教職員が参加した防災訓練を毎年実施して防災体制の強化に努め、緊急時の対応を確実にこなすよう取り組んだ。(○)</p> <p>(3)イ 生徒指導部を中心に、生徒と個々の事象にも配慮しつつも、しっかりと生徒指導を行った。残念ながら、喫煙行為を中心に、懲戒件数を低減できなかった。(△) H29 9件→H30 9件</p> <p>(3)ウ 計画的な取組みを行ったが、学校教育自己診断調査時までには、成果は見られたが、十分高める事はできなかった。(△) ・人権意識が高まる H29 64.6%→H30 66.7%</p> <p>(3)エ やや成果は見られるものの、教員が減少する中で、また、生徒状況が複雑化する中で、十分な成果は上げられなかった。(△) ・先生に気軽に相談できる H29 60.0%→H30 63.0%</p> <p>(3)オ 地元の中学校や保護者へ情報発信は定期的に行えた。しかし、生徒の気持ちを高めるには、さらに工夫が必要。(△) ・学校へ行くのが楽しい H29 57.5%→H30 55.3%</p>